

〔表紙〕
元文三年

砥山品々御尋ニ付御請書上帳

午二月

市川 半兵衛

福田 文右衛門

上野砥山初年方之訳、委細可ニ申上旨

御尋ニ付、奉々畏、左ニ申上候覺

一 砥山初発者何頃ニ而砥切初メ候哉、往古之訳「一切相知不申候、

当半兵衛先祖方以前之義者、江戸奈良屋市右衛門と申者御請負

仕候由申」伝候へ共、御運上之品砥切出高之訳書付」等茂一切

無御座候、半兵衛儀者四代以前元和」九五年方享保十三申迄

百七ヶ年御請「負仕来申候、然共砥山見立候謂村方願候而」砥

切初候哉之訳、何頃方何者御運上納初候」子細、一切相知不申

候、元和九五年以来之儀者、」半兵衛方ニ委有之候、半兵衛

も四代已来御「請負仕来候ニ付、相統仕度勘弁仕候へ共、」三拾

年以来伊豆砥・伊予砥諸方へ徘徊仕、」上野砥壳後、」上納金千

九百兩余ニ罷成、其」上他借金差支困窮仕、致方無御座御」

訴訟申上、去ル申年御請負被遊御免候処、」跡請負文右衛門

ニ被ニ仰付候

一半兵衛先祖方当半兵衛御請負之内迄、御」運上納候多少、切出

シ候員數多少、書上候様ニ」被ニ仰渡奉々畏、右年數之内年々増

減有之候ニ付、御運上納方并砥切出シ高不殘」別帳ニ記差
上申候

一 砥切之儀者、往古より所のもの切覚候而、渡世ニ仕来り申候、

他所之もの罷越、切候而稼仕候」義無御座候、尤砥山初発ニ

者、如何様之事ニ而」切習候哉之訳、年久敷義故、委儀一切相

知不申候

一 当時砥切共儀、前々方砥山ニ砥切小屋有之候而、」雨雪降候而

も右小屋ニ而砥形新切仕、其日」限りニ自分々々之家へ持来候

而、上割仕上候」儀ハ、妻子共之仕業ニ仕来り申候

一 砥切家別百式拾壹軒 内

但 七拾壹軒ハ、砥株計所持仕、

地方無之、砥計切候砥切共

但 五拾軒ハ、砥株・地方共ニ所

持仕不申候砥切共

〔後略〕